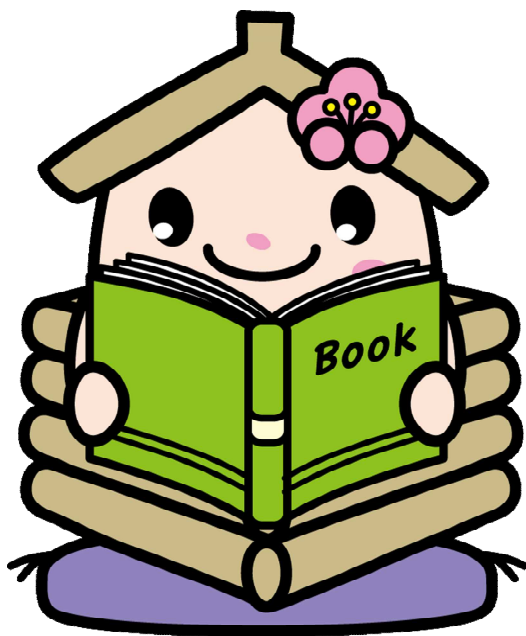


中学生におすすめの本

2018

# ブックセレクション



酒々井町立図書館

『身近な植物に発見！

種子（タネ）たちの知恵』 一般471タ

多田多恵子／著 日本放送出版協会

タネは時空を旅するマイクロカプセル。飛んだり、はじけたり、くっついたり、タネたちの巧みな工夫を、形状の面白さとあわせて紹介しています。身近な植物の面白さに、感心すること間違いなしです。



『西の魔女が死んだ』 ティ913ナ

梨木香歩／著 新潮社

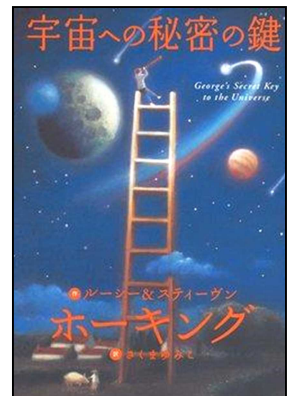
中学校へ進んでまもなく不登校となったまいは、初夏のひと月あまりを西の魔女こと、母方の大好きなおばあちゃんのもとで過ごします。まいは西の魔女からその手ほどきを受けますが、魔女修行の肝心かなめは〈何でも自分で決めること〉でした。喜びも希望も幸せも…。



『宇宙への秘密の鍵』 ティ933ホ

ルーシー・ホーキング／作 岩崎書店

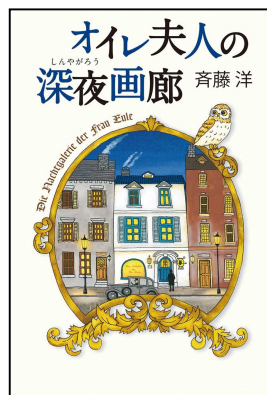
天才物理学者ホーキング博士とその娘さんが子ども達のために書いた冒険物語。スーパーコンピュータのコスモスによってジョージ少年と友達のアニーが宇宙に行き、星の誕生やブラックホールなど宇宙の神秘を追います。



## 『オイレ夫人の深夜画廊』 児913サ

斉藤洋／作 偕成社

見知らぬ町で途中下車したフ란ツは「深夜画廊」という書店に入る。そこで運命を変える不思議な体験をする。やがて自分が本当に求める新しい将来の道を見つけ…。古き良き時代のドイツの町を舞台にしたファンタジーあふれる作品。『ドローセルマイヤーの人形劇』『アルフレートの時計台』とともに「イエーデシュタット三部作」の一つ。



## 『君たちはどう生きるか』 ティ159ヨ

吉野源三郎／著 ポプラ社

「どう生きていこうか」「どう生きていくのが正しいのだろうか」この問題にぶつかった中学2年生のコペルくん。いろいろなことに出会い、いろいろなことを考えて、そして最後に、コペルくんは…。



## 『スピニー通りの秘密の絵』 ティ933フ

L.M.フィッツジェラルド／著 あすなろ書房

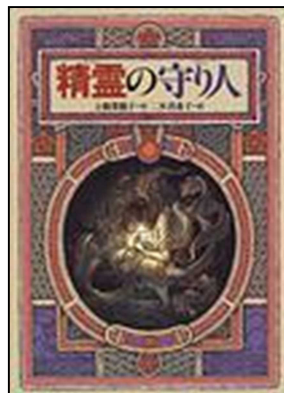
13歳の少女セオは、ニューヨークのスピニー通り十八番地で画家の祖父、母親と3人で暮らしていました。ある日、祖父が「卵の下を探せ」という謎の言葉を遺して亡くなります。困窮した生活から抜け出すため、セオはセブ女子ボーディとともに秘密の絵の鑑定に挑みます。美術と歴史が重なり合う重厚なミステリー。



## 『精霊の守り人』 ティ913ウ

上橋菜穂子／作 偕成社

偶然、新ヨゴ皇国の皇子チャグムの命を救った女用心棒・バルサ。命を狙われているチャグムを守るよう依頼を受けますが、チャグムは異世界の水の精霊の卵を宿した〈精霊の守り人〉でした。父である帝、そして異世界の魔物ラルンガから追われる二人の運命は…。異界と人の世界が交錯する『守り人』シリーズ第1巻。



## 『星の林に月の船 声で楽しむ和歌・俳句』

大岡信／編 岩波書店 ティ911ホ

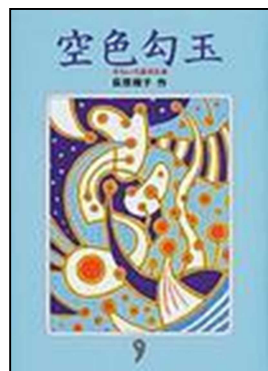
万葉集から昭和初期までの和歌、俳句が194作載っています。意味よりも、まずは七五調のリズム、ことばの響きを楽しみましょう。日本語の奥深さを実感できるはずです。短い鑑賞の手引きもあります。



## 『空色勾玉』 ティ913オ

荻原規子／作 徳間書店

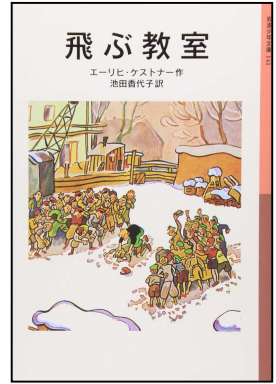
村娘として平穏な日々を送っていた狭也はある祭りの晩に鬼から闇の氏族の巫女姫だと告げられ、水の乙女の勾玉を手渡されます。闇の氏族でありながら、輝の宮に憧れと救いを求める狭也。しかしそこで待っていた絶望。そして稚羽矢との運命の出会い。神々が地上を歩いていた古代の日本豊葦原を舞台に、水の乙女狭也と風の若子稚羽矢の冒険、成長、恋を描く壮大なファンタジー。



## 『飛ぶ教室』 児943ケ

エーリヒ・ケストナー／作 岩波書店

生徒がともに生活するドイツの寄宿学校。ボクサー志望のマッツ、貧しくも秀才のマルティン、臆病なウーリ、詩人ジョニー、クールなセバスティアーンは、生い立ちの性格も違いますが、正義と友情で一つに結ばれています。悩みや悲しみを抱えながらも、正義先生など魅力的な大人たちに見守られながら成長していきます。



## 『もういちど家族になる日まで』 ティ933ラ

スザンヌ・ラフルーア／作 徳間書店

クラッカーとチーズの朝食……テレビ……クラッカーとチーズの昼食…テレビ……クラッカーとチーズの……。11歳のオーブリーが一人になって1週間が経ちました。パパと妹を事故で亡くしたショックで、ママが何も言わずに家を出てしまったからです。おばあちゃんに引き取られると、隣に住む同い年の少女と仲良くなり、少しずつ新しい生活にもなじんでいきます。心に深い傷を負った少女がまわりの人々の優しさで立ち直っていく姿が描かれています。



## 『もうひとつの屋久島から』 児291タ

武田剛／著 フレーベル館

1993年、日本で初めて世界自然遺産に登録された屋久島。自然豊かなこの島も、つい40年前までは広大な原生林が伐採されていました。それをとめるきっかけとなったのが「縄文杉発見」のニュースです。自然を守る先人たちの苦労と努力が始まりました。

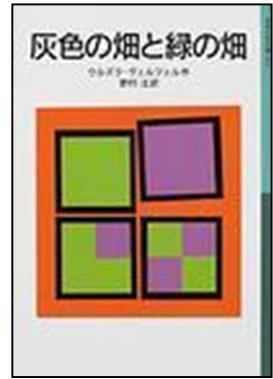
屋久島の過去・現在・未来を通して、私たちに「どう生きるか」を問いかけている一冊です。



## 『灰色の畑と緑の畑』 ティ 943 ベ

ウルズラ・ヴェルフェル／作 岩波書店

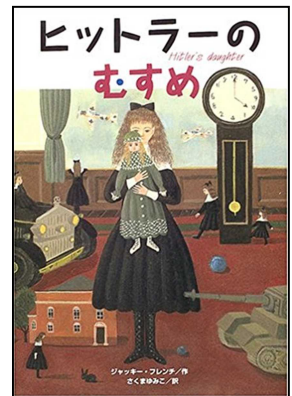
ここに書かれている14の物語は本当の話であり、あまり愉快なものではないでしょう。戦争、貧富の差、両親の不和、老人の孤独。話に結末はありません。読んだ人がめいめい自分で出さなければならぬのです。



## 『ヒットラーのむすめ』 兎 933 フ

ジャッキー・フレンチ／作 鈴木出版

ある雨の日、想像でお話を語る「お話ゲーム」としてアンナが語ったのは、ヒットラーのむすめ“ハイジ”の物語でした。ほんとうにいたかどうか分からない謎の少女の話に、マークは引き込まれていきます。もし自分がヒットラーの子どもだったら、もし自分のお父さんが極悪人だったら…。身近な問題として戦争を考える一冊です。



## 『マルの背中』 ティ 913 イ

岩瀬成子／著 講談社

両親の離婚で母子家庭になった小学3年生の亜澄。困窮した生活の中でも、離れ離れになった弟を想い、母には泣き言も言わず、懸命に生きようとしています。猫のマルの背中を何度もなでながら願い事をして、希望を見出そうとしていく、幼い少女の健気な心情が繊細に描かれています。



## 『クラバート』 児943ブ

オトフリート=プロイスラー／作 偕成社

少年クラバートは不思議な夢に導かれて水車場に行き、親方から魔法を習います。そして3年後、クラバートは自由と友情と少女への愛をかけて、親方と対決します。クラバートの運命は？

ドイツに伝わる〈クラバート伝説〉をもとにした、プロイスラー文学の頂点ともいえる物語です。



## 『コンピューターってどんなしくみ?』

村井純／監修 誠文堂新光社

最近は人工知能(AI)を搭載したマシンが生活で使われるようになったり、日常の様々なモノがインターネットとつながって(IoT)、どんどん便利になりつつあります。コンピューターの原理を図解でわかりやすく解説。皆さんがコンピューターと仲良くなるのを手助けしてくれる本です。

児007コ



## 『はるかな旅の向こうに』 ティ933レ

エリザベス・レアード／作 評論社

シリアの観光地ボスラに住むオマルは、将来自分の店を持つことを夢見る13歳の少年。ところが、町では内戦が激化。一家は危険を避け田舎へ、さらに隣国ヨルダンへ逃れていくことになります。壊滅的な戦争をくぐり抜け、生きた一人の少年と家族の希望の物語。

